



門三  
卷1-2  
1109

大日本帝王系之圖

第一節 神武天皇  
治十九年

第二節 綏靖  
治九年

第三節 安寧  
治九年

第四節 懿德  
治九年

第五節 孝昭  
治九年

第六節 孝安  
治九年

第七節 孝靈  
治九年

第八節 孝元  
治九年

第九節 開化  
治九年

第十節 崇神  
治九年

第十一節 垂仁  
治九年

第十二節 景行  
治九年

第十三節 成務  
治九年

第十四節 泉武尊  
治九年

第十五節 仲哀  
治九年

第十六節 神功  
治九年

第十七節 應神  
治九年

第十八節 仁德  
治九年

第十九節 履中  
治九年

第二十節 反正  
治九年

第二十一節 允恭  
治九年

第二十二節 安康  
治九年

第二十三節 雄略  
治九年

第二十四節 清寧  
治九年

片山文庫

片山文庫



集統別皇子

大大迹王

私斐正

彦主人王

七世 繼體 治 年

八世 安閑 治 年

九世 宣化 治 年

十三世 欽明 治 年

九世 天智 治 年

施基皇子

四世 元明 治 年

四五世 仁明 治 年

五五世 文德 治 年

八五世 光孝 治 年

十六世 醍醐 治 年

十六世 朱雀 治 年

四世 顯宗 治 年

押坂凡皇子

一世 敏達 治 年

二世 用明 治 年

三世 崇峻 治 年

四世 推古 治 年

四世 持統 治 年

九四世 光仁 治 年

十五世 桓武 治 年

七五世 陽成 治 年

六五世 清和 治 年

九五世 宇多 治 年

七六世 三條 治 年

五六世 花山 治 年

五世 仁賢 治 年

茅渟王

六世 皇極 治 年

舍人親王 草壁太子

十四世 天武 治 年

五世 舒明 治 年

一五世 平城 治 年

三五世 淳和 治 年

二五世 嵯峨 治 年

十七世 後冷泉 治 年

一七世 後三條 治 年

一七世 白河 治 年

三七世 堀河 治 年

八七世 二條 治 年

六世 武烈 治 年

七世 孝德 治 年

八世 齊明 治 年

七世 廢帝 治 年

四四世 元正 治 年

二四世 文武 治 年

五四世 聖武 治 年

六四世 孝謙 治 年

八四世 稱徳 治 年

四七世 鳥羽 治 年

五七世 崇徳 治 年

六七世 近衛 治 年

七七世 後白河 治 年

九七世 六條 治 年



二六 村上 治元年

三六 冷泉 治二年

一八 高倉 治三年

後高倉 治元年

四六 圓融 治二年

九六 後朱雀 治九年

一八 安徳 治三年

五八 後堀河 治二年

六六 一條 治五年

八六 後一條 治九年

三六 後鳥羽 治十五年

六八 四條 治二年

四八 順徳 治二年

一六 伏見 治二年

七九 光明 治二年

九 後光嚴 治二年

三八 土御門 治二年

三九 後伏見 治三年

六九 光嚴 治二年

一 後圓融 治二年

七八 後嵯峨 治二年

四九 花園 治二年

八九 崇光 治三年

一 後小松 治三年

八八 後深草 治三年

大暹院 治元年

七 正親町 治九年

三 稱光 治六年

九八 龜山 治五年

三 後花園 治元年

陽光院 治元年

八 後陽成院 治五年

十 後宇多 治三年

四 後土御門 治六年

九 太上皇帝 治十八年

十 女帝 治十年

三九 後二條 治六年

五 後柏原 治元年

七 後光明 治三年

五九 後醍醐 治三年

六 後奈良 治元年

七 今上皇帝 萬萬歲



日本記之内國名

- 第一 畿内キナ 五ヶ國
- 第二 東海道トウカイダウ 拾五ヶ國
- 第三 東山道トウサンダウ 八ヶ國
- 第四 北陸道ホクリクダウ 七ヶ國
- 第五 南海道トウカイダウ 六ヶ國
- 第六 山陽道サンヤウダウ 八ヶ國



第七 山陰道八ヶ國

第八 西海道九ヶ國

付 鳴二有十八ヶ國

第一 淡路道八ヶ國

第二 遠州道八ヶ國

第三 駿河道八ヶ國

○畿内五ヶ國者

山城 大和 和泉 河内 攝津 是ナリ

畿内トハ都ハ國ノ中ナル故ニ今ノ五ヶ國ヲ

ハ日本ノ中央ト云ナリ日本記ニモ内記ナリ

畿ノ字ヲ近ト讀ム事都ニ近キ國ナルユヘニ

畿内ト云ナリ又畿字廻トモ讀リ都ヲ中ニ

ライテテ四方ヲメクル國ナリ問日本國ヲバ

八ツニ分ルトキ七ヶ國ニ道ノ字アリ何ノ畿

内ニ六道ノ字ナキナリ答曰畿内ハ日本ノ中

ニ都ニ千カキ國ノユヘニ道ノ字不付ナリ



東海道ナト、号ス是ハ畿内ヲ中ニシテ勅使諸國へ下サル、順道名ナリ依之畿内五ヶ國ト云ナリ

山城國ト昔用明天王ノ王子鹿戸王子ノ御時四天王等ノ材木ヲ取トキ處ハ今ノ平ノ京迹ナリ捨シ材木ヲ取處ヲ杣人ノ言云山開ト云ナリ然ハ彼ノ處ヲ昔ハ山開ト書リ其後山城ト書事ハ物ノ種ヲ蔣處ヲ代ト云ナリ苗代ウエ代ナト、如云ナリ如其今ノ材木取置タリシ處ナレバ山代ト云ナリ開ト云

字ヲ代トヨムヘキニアラス又城ノ字ヲ書テシロトヨム事ハ天智天皇大友王子ニ位諱ヲナサレ至山城ノ國ヲ通リ玉フ時大友王子ノ軍兵待カケテ討奉リケレバ御背ニ矢立ニケリ仍其處ヲ矢背里ト云然ニ兵匠又俄追懸奉ル間北山ノ奥ニ城ヲカマヘタテヨモリ給ヒシ御馬匠ヲ鞍置ナガラツナギラキレユヘニ其處ヲ鞍馬トナツクナリ此時ヨリ山城ノ城ノ字ヲ書ナリ次皇子ノ方ノ軍兵破レテ後天武天皇ハ伊勢大神宮ニ爲御祈禱誓御參宮



アリ其時又皇子方ノ軍兵於鈴麻山待カ  
ケタテマツル天王コノコトヲキコシメテ義  
濃國ヘマワリ玉フニ其時鏡ノ大君討玉フテ  
其塚ヲツキタル處ヲ近江鏡山ト号ス又皇  
子方ノ軍兵破レテ天皇方ノ軍兵ハ不破其處  
ヲ不破關トナツクナリ其后義濃國ニ至ル有  
河ニテ御身ノ垢ヲ雪セ玉フ時ニ山城ニテ負ハ  
世王ヒレ御背ノ疵治ケル其トキコノ河ヲ苦  
醫瀨河ト号ス苦ヲ治醫河ト宜ベ玉フ故有  
大和國者日本ノ惣名ナリニカルヲ一國ニ呼也

又大和ト云事ハ混沌割分レテ世界未建  
立泥土未乾トキ昔人山ヲ栖トセシカハ山  
二人ノ迹多見ヘタリ仍山迹國ト日本ヲ号  
又大和歌大和言式嶋大和實津ナト、説ク  
今カンガウルニ不遑巨細日本記ノ釋ニ見  
ヘタリ  
河内國トハ神武天皇御宇銀河ヲ迂給シ  
其内ノ河ナレハ彼處ヲ河内ト号ナリ然レハ  
天河ト云處今ニモ有ルナリ  
和泉國ト、彼國清水多ク出ル處ナレハ和



泉國ト号ス泉ハ水ノ名ナレハナリ  
攝津國トハ天照太神ノ若尊ヲ天ヨリ地ヘ  
クダシタテマツリ至フ時天翔女尊付テ下サセ給  
時ニカノ翔女天ノ鳥舟ニノツテ翔リシ其渡舟難波  
津ニトミルニ仍テカノトコロヲ尊敬シ高津ト  
号スユヘニ此國ヲ攝津ト号スカノ鳥舟ノ心ヲ  
歌ニ云フ▲トヒカヘル天ノ翔女ノ岩舟ヲ泊レ  
高津モアゼニゲルカナ次問曰ク何攝津ト  
カイテ津國ト云ナリ答曰クコノ國ハ舟ノツ  
キニリヲシレシカルニカノ高津ニ多ク津ヲ

攝タルコヘニ攝津トカクナリ問テ曰ク又攝  
津國ニ武庫藏ト云トコロアリソノユヘ如何  
答テ曰ク是レ仲哀天皇ノ后キ神宮皇后ニ  
韓ノ夷國ヲ打隨テ飯朝シ給シトキニ其兵  
具ヲササメウスニヲキ玉ヒシトコロナリ其  
上ニ法堂ヲ建立シ本尊觀音金匱ニシテ  
御座ス神宮皇后ハ應神天王ノ御母后トカヤ  
又夷國追伐ノ様ハ築紫筑後ノ國高良ノ縁  
記ニアリ

○東海道拾五ヶ國ト者



伊賀 伊勢 志摩 尾張 三河 遠江  
 駿河 伊豆 甲斐 相模 武藏 安房  
 上総 下総 常陸

伊賀者 天照太神素盞烏尊ヲ地へ下シ  
 給シトキユレヲ以テ悪魔等ヲ鎮メ玉フトテ  
 十握劔ヲアツケ玉ヒキ其右尊ト地神手  
 摩乳ノ娘ニヲホシメニツキ玉ヒテ政道ニ及  
 ハサルニ仍テ太神御怒リ有テ其ヲ怒テ  
 返セトコイ玉フトコロニ尊一其劔稻田姫  
 カタク所望ノアヒダアタヘ玉フト太神イヨク

イカリ玉フニ依テ詮方ナフシテ尊卑ク吾  
 ニ最愛ノ寵姫アリ是ヲ劔ノ代ニタニツラ  
 ント言上如件而大神承諾給キソノ後ハ約  
 束計ニヨツテ齊宮ノ沙汰ニヲヨハサルアヒダ  
 大神ノ御處種々ノ物怪トモ有シカハ宗神  
 天皇ノ御代姫宮ヲ伊賀國へ祝タテマツリ  
 齊宮ノ御殿ヲ建立セラレコシニヨツテ太神  
 イカリノ御コロヲヤメ給ヒテカヘツテ御賀  
 アリシカルアヒダ其處ヲ伊賀ト号ス  
 伊勢國トハ其後齊宮ノ御神殿太神宮



ヨリ遠キユヘニ御イカリアリシ齊宮ノ御  
殿ヲ山田ノ北ノ里ニウツシタテマツル御  
ヲモ御イカリノユヘニ齊宮ニウツシ玉ヒ其時  
太神伊勢ニ御座シカバコレヲ伊勢ト号ス次  
問テ曰ク伊勢國神風ト申スイカン答テ曰  
ソノレサイ異儀ニコレアリ一義ニ御裳洗河ニ  
神カ瀬下ト云アリ是ハ天照太神常ニ下涼  
給瀬也故神風ト云一義ニ天照太神威光ヲ風ニ  
諭也一義ニ阪訪大明神天照邊ニ擯給時神風ト  
云一アリ是等日本記ノ明證也又神風ハ阪訪大明神ノ

眷屬ナリ故ニ風神祭ニ筒ヲ切テ風ヲアヲ  
キ入レテ風イテザルヤウニ口ヲフサキテ深  
ツ、ンテ土ニウスムナリ  
志摩國トハ假名字カキナリ伊勢嶋ノ号  
コレハ別ノ地ヲハナレテ海中ニイツル嶋ナリ  
シカルヲ國ノ名ニワクルナリ  
尾張國トハ日本武尊東夷ヲシタカヘテ後  
信濃國神ノ御坂ヲトヲリテ都ヘ御上リ  
アリシトキ東國下向ニ召具セラレシ源太夫  
ノ娘橋姫ノ事ヲ思召イタシ山路ノ傍ニヨリ



イサセ玉フ彼ヒメノスニ玉ヒシ東海ノカタ  
ヲ見像蹲居ワカツマヤワカツマヤトナゲキ  
玉フニ依テ其御言ニツケテ上州信濃ノ塚  
ノ山ヲワカツマト号スアカツマ凡云ナリ蹲  
居タマヒシトコロハウスイノ峠ト号ス而シテ  
カノヒメノ源太夫ノ宿所ニタチイラセタマヒ  
ツ、其トコロヨリ白鳥トナツテ西ヲサヒテ  
トヒサリ玉又其鵲ユキヲチツキタリシ山ヲ  
鷲坂山ト号ス山城國ニ有之カノ尊崩御  
イゼンニ太神宮ヨリ給ヒシ村雲ノ劍ヲ先

々ニ、大神宮ヘカヘシ玉ヒシカ尊ノ崩御ノ  
事、コノ劍聞テ伊勢國ヨリトビキタリテ  
尾張海邊ナル楠木ニカ、リテナゲキ焼丸  
ユヘニ楠木トモニヤケニケリ其木倒レテ田  
ニハシカハ田水ワキテ熨湯ノコトシコレニ依  
テ其、コロヲ熨田ト号ス又其劍ヲ件ノ楠  
木ニ入テ納タテマツル其トコロヲ祝タテマツリ  
熱田太神是ナリカノ劍ハ素蓋鳥尊ノトキ  
出雲大地ノ尾ヨリ取りタリシ劍ナリスナキ  
カ、地、尾ノ劍ナリカルカユヘニカノトコロヲ



尾張、号ス但張ルト云字ヲ書テワリト  
ヨムコトハ蛇ノ尾ニ有シトキコノ蛇ノ針出  
シトキカノ肉張テイツルユヘニ張ノ字ヲ書  
ナリ而シテコノ國ハ表濃國南ノ端海際ニ  
入り海水落ルニシタカツテノボリテ國トナ  
ルナリ仍ニ後ニ張カ入ルハ國氏云張字ヲ  
モチヒテ尾張トカキタル義アリ又此國ハ  
伊勢ノ安濃津ヨリ尾張ノ國ノチマタノ峠  
テテヲキワタル其道一日半計遠淺トナル  
時ニ涯遙ニイツルトコロナリ

三河トハ此國ニ三ツノ河アリ一ニハ男河ニ  
ニハ豊河ニニハ矢作河是ナリコノ三ノ河ニ依  
テ名テ三河ト云又男神トハ河上ニ山神アリ  
テ女神男神一トコロニハスミ玉ワスタチヘタ  
リ其名ヨリ出テ男神河ト云コノ神世俗ニ  
白鬚ノ明神ト申ストカヤ次豊河トハ一盛  
長者アリケルカレヲミレバコノ河上ニスミイタ  
玉フナリ人屋サカンナル事女里ナリ彼民家  
豊ニサカンナルユヘニソノナガレヲ豊河ト号  
又矢作河ハ日本尊東ニ下向シ給ヒシ時夷ノ



兵トモ高石山ニテ、チカケタテ、ツリシ由  
ヲキコレメシカノトコロニテヲ、ク矢ヲシ玉  
ヒシユヘニツノトコロヲ矢作トモ河ノ名ニ  
モツケ玉フナリ

遠江國トハ遠津トカイテ其ユヘハ近江  
國ニ都アリシ、テ彼ノ名ナカリケリソノ  
ノチコノトコロヲ近江遠キ國ナレトテ遠江  
ト号ス江ノ字ヲ近江トヨニ又佐々那トモ  
ヨムユヘナリシカレバ遠津江トカケトモ遠江  
トカキテ遠トフミトヨメリ

駿河國トハ昔ハ洲流河トカイテスルカト  
ヨムソノユヘハ葛キ級河ノ湊漂洲アリ彼ノ  
洲浪ノウツツニシタカツテ此方彼方ヘユク  
然ラハ駿河ト云ハコノ河ハヤキユヘニ駿ノ字  
ヲ付ナリ富士ノ南海ニユラレ浮ンテ平地  
不定ナルトキ浪ノ折ヨセテユノ國ニヲケハ  
ヨツテウチヨル駿河トモ号ス又駿ノ字ヲ  
駿トモヨム、駿摩ノ二字ハ洲ノ字相通ナリ  
ユハウノ字連言ナリムノ字ハルノ字ト連言  
ナリ横モ一句ナリ次駿ト其アリトコロヲカ



ユル事ナリ

伊豆國トハ假名カキナリ是ハ出テ名國  
ト可書ナリソノユヘハ東ノワキニ相模ノ國  
西ハ駿河國其中間ヨリ豆劬ハハルカニ海中  
ヘサレイテタル山ノ崎ニテアルナリ故ニ出  
ノ國トカウス一義ニハ伊豆御山ニ出ル湯  
アリ伊豆ノ權現ハコノ國ノ鎮守ニテ御座  
コノ神ハ湯ヲ愛シタマス湯ノウヘヲハシリ  
アスヒ玉フナリシカレハ走湯出ツトモ準テ  
伊豆國トカナカキニ号スナリ

甲斐國トハ昔ハ富士山ノフモトニ竹取ノ  
翁トテ竹ヲ種テアキナイケル者アリ彼  
ヲキナ菌生竹林ニシテ鶯ノ卵ヲ見付タリ  
暖置ソノノ千程ヲヘテ是ヲミレハ容顔優ナ  
ル電姫トナリケリシカルニカレヲ養子トス  
タケレ後ニカノ翁ガ田作りケルトキニ暇ナ  
クシカバ養母ノ訟ヘテイハク隙ナキ時ニシ  
モ何トカヤ手助トナリ給ワサルトナサケ  
ナク云ケレハ鶯姫コレニ怒ヲナシテ富士山ノ  
三子ニノホリテ岩ヲ蹴破テ湯ヲ走ラカシ



田ツクル人カレヲ三十焼石トナル件ノ祖父  
祖母ハニゲテ白根ガ三子ヘユキ又彼ノ田カケ  
ル馬モニゲテ信弱駒カ三子ニス三ケル其駒  
主ヲワスレズツ子ニナレシカバカノ馬ヲコ、ロニ  
入テ飼レユヘナリ此ノトコロフ飼國ト云レカ  
ルヲカナガキニ甲斐トカクナリ黒駒ト云モ  
甲斐ヨリイツルナリ

相摸國トハ足輕明神ハ昔狩人ニテ御座  
ケルカ電愛ノ妻ニハナレテ形見ニ其鏡ヲ三  
ルニ他人ノ形ハナク吾形ノミ見ヘケルハ人無  
シ

巴カ身アルト云ケル其ヨリコノトコロヲ相  
摸ト号ス其ユヘハカノ鏡ニ恋レキ人ノ形ヲ  
相摸ヲ云ナリ本歌云▲足カラノサカニニ行レ  
玉鏡箱根ノ山ニ明レアレタニ次ニ問テ曰ク  
彼ノ明神ノマシマストコロヲ足輕ト申ス一ハ  
イカン答テ曰ク昔コ、ニ羽白熊ト云強キ  
山賊ノニクル人ヲモ馬ヲモ皆ヲヒワスラハカレ  
アル岩山ヲ人馬モカヨワサル處ニ岩ノカトニ  
ソノ經ヲカケツケテタクリ上リテ其二栖ケ  
リ山輪ヲハカケリ山ト云リ後日本武ノ尊



當國下向ノ時ニ山賊イケトラレ奉ツテ  
罪科アルノマ、ニ白恬シケルニヤ尊ノ御言  
ニ足カルク越タリト仰ラレテカノ足輕ガ  
ス三ヶル山ヲ足輕ト号スナリコノ山ニテ舟  
ツクレハ足カルクハヤク走ルトテ足輕ノ小舟  
トモ号スナリ

武藏國トハ當國帙父ノ嵩ハ其鎧武者ノ  
イカリタツル体ナリコレニ依テ此國ノ人ノ心タ  
ケキナリ日本武ノ尊東夷ヲ追討ノタメニ下  
リ給レトキカノ三子へ詣テ御覽ン吾朝ノ

人ノ心武事コノ三子ノユヘナリ依テ吾レト凶  
徒ヲシタカヘル大將軍タリシカレハ御祈禱ノ  
タメトテ所持シ給ケル兵具ヲ彼ノ妙嶮大菩  
薩ノ御嵩ニヲサメウスミヲキ玉フナリ彼ノ武  
具ヲ岩藏籠ラル故ニ号ソ武藏トイフ又武具  
サシヲクト仰有ケルニ云々然也  
安房國トハ海上リタ處又水上ニ白キ物ヲハ  
淡ト云コノ國ハ于涯ニテ水ヨリ上ニミユル故  
安房ト云リカナカキナリ淡ノ國ナリ  
上総下総トハツサトハ木ノ枝ナリ昔カノ國ニ



長サ百丈ノ楠木生タリ時御門是ヲキコシメ  
シアヤシキコトトテ勅使ヲタテ見セラレテ  
吉函ヲ勘サセ給ケルニ天下調狀ノ篇木也  
ト申ス依テ彼ノ木ヲ切ラセシカハ南方へ倒  
レリ故ニ上ツ枝ノ伏ルトコロヲ上総ト云下枝ノ  
伏ル所ヲ下総トナツクルナリ

常陸國トハコノ國ハ塩得満テ民ノ家居煩ヒ  
アリテ依國常陸國ト宜ヘ玉フ依其後ハ塩遠  
ク上ラス民安穩ナリカルカユヘニ常陸ト云介  
常ノ字イツモト云コ、ロナリ陸ノ字ヲクカト

ヨムナリ陸地ト云コ、ロナリ又一義一、日本  
武尊下向ノトキ筑波根ノフモト新針懸ト  
云處ニ新井ヲ堀ラセ自御袖ヲキヨク、給ヒ  
カルカユヘニ衣手ノ漬ノ國庄号スカレハ是陸  
地ニ相應スルヲヤ

○ 東山道八ヶ國又中山道庄云

近江 美濃 飛騨 信濃 上野 下野  
陸奥 出羽

近江國トハ湖沼ノ名ナリ近ノ字ヲ用ルハ  
天智天皇ノ御時ニヤコヲ大津ニタテラル其



トキ大内ニ近キ湖ナルヲ以テ近キ江ト云  
ナリ問テ曰ク近江ヲ又東々浪ト云フイカ  
答テ曰ク大津宮ノトキ戊亥ノ方ニ當ツテ  
山ノ洞ニ優婆塞有テ經行念誦ス尅々ヘズ  
勅使此ヨシヲ奏ス依天智天皇行幸ナレ彼  
トコロノ名并優婆塞ノ名ヲ御尋アリケルニ  
答云古山灵窟伏藏化々浪長等山ト唱テ  
三ツカラ名ヲハコタヘズカキ消スヤウニ失ニ  
ケリ其ヨリ近江國名ヲ佐々名實ノ國トモ  
云ナリサテモ其前寺ヲ建崇福寺ト号ス然  
ヲアラタメテ園城寺ト号ス夫ヲ又智證  
大師ノアラタメテ三井寺ト号ス初ハ御井  
号ス是天智天王御時也四十代メノ天武天  
王ノ御初陽ニモチヒ玉フユヘナリ其智證大  
師此御本尊ニ弥勒菩薩ニテマシマスユヘニ  
ニ會ノ曉出世ノトキ初湯ニ當心ニテ三井  
ト名ヲツケテアラタメ玉ヒシナリ又問テ曰  
カノ仙人ノ迹江ヲ佐々浪ト云レコハロハイカ  
答テ曰クナミノナガレタツコトハ大海ノ如ク也  
コノ湖水ハヒロシトイヘ氏大海ニヲヨノスレテ



アイタ小ナ三タツコトナリ湖水江水ト云  
江湖ト云ナリ

羨濃國トハ日本武尊東ヨリ還上ナキレ

玉フキ素盞鳥尊ノコロシ玉フ大地冥怒

ヲナシテ大地ノ形ヲ現シ路頭ニフセリ依テ

ソノ山ヲ伊弉氣山ト号スカノ蛇ノ道ニ伏シ

タリシ背ノヒレニ尊ノ御足ヲフミアテ給シ

トキソノミ癩五体ヲ責タテミツルニ依テ其

冥有ニコソ水ニ御足ヲ冷シ玉フ其清水ヲ  
醒片ト云サテソノ蛇ノ難ヲサラントシ玉フ

アトヘカヘシ玉フテ又清水ニ御足ヲヒヤシ

玉フコノ水ハハシメハ少シアリケルガ尊御足

ヒヤシ玉フトキヨリ此井ニ水ニチタツタリ

此トキヨリソノコトヲ足井トモ号ソ御足ノ

イタニ治シタリ御足無痛サテ其コトヲ得

羨ト号スニ依テコノ國ヲ羨濃ト云一義ニ

云崇神天王ノ御トキ東夷蜂起シケルニ

御門足井ノ東ノ原ニテ行幸アリ依テソノ

コトヲ御野ト号ス當代ハカシハバラト  
号スナリ



飛騨國トハ地神ハ美濃國ノ内ナリ然ニ  
近江ノ大津ニ城ヲタテラレシトキ材木ヲ  
エラミシニ美濃國ヨリ一イリタリシ大工  
申テ云クカノ國ノサカイナル拙ニヨメヨキ  
ナル節モナキ用木ヲキトコロナシ彼ヨリ  
宮木ヲメシアツメサセ玉フヘキ物ヲト申ス  
シカレハソレヨリ材木ヲ取イダサセ大津ノ馬  
トモニテ數万駄ヲハコバセ玉ヘバトブガコトク  
一イルトテ讚テ飛騨ト号シ玉フ次ニ拙人  
木道等ヲモ飛騨人ト号ス宮木各所ナシ

ハトテ司ヲ下サル、其山ヲ位山ト号スルナリ  
信濃國トハ木ノ中ニ級ト云木アリ彼木  
ノ皮ハキワメテ白ロシ中ニモコノ國ノ級ノ  
カワハスグレテシロキナリ是ヲ以テ阪訪ノ  
御裝束ニ前後ニ用ヒラルナリ依テ又級ト  
云義ニニツアリ一ニ六級ニニ六白ト云コノニ  
義トリアワセ品ト云フナリ日本記歌ニ曰  
▲イモト我タチモヤラレヌ白駒ノ其アシ  
ウラノ土ハナシトモ是ハ世俗ノ言ニ其毛  
馬ノカケルホドハ子上テ落チタル土ナリ



男女十ニ、テモ寤シタニヲキ又保曾ニシノ  
ビテ付レバ久ク子ルトナン又信濃國ハ風ハ  
ゲシク極テ寒國ナレバ草木モ白ク霜枯ト  
云フ本哥ニモ▲ニクサカル信乃ノ真弓我引  
馬人サヒスイナントヅラモフ一義ニハ三草  
トハ枯ル、イナリ三方變ノコトハナリコノ哥  
ノコ、口ハ三草トハ實成ル草ナリ秋ノ草  
コレナリ秋ノ草實ナツテ後カル、白ク成ル  
ユヘニ白ト云ナリトテカルシナノトツツケテ  
云カルトハ枯コトナリ次ニ信乃真弓ト云

コトハコノ國ヨリ木出始リ日本武尊越後  
國鳥坂城へ征夷タメニ下向ノ御！キ信  
濃國ノアル山中ニ宿リ玉フ夜深キトキコレ  
メレ玉フ弓ノ絃ル打スル音アリ尊コレヲア  
ヤレニミタマイテ翁ニ是ヲ乞取給テスナチ  
遊テ弓ト成レ玉フ征夷ノ後還御ノトキ  
弓ノ威勢ハ太キ由ヲサキノヤトノ翁ニ仰  
ラルトキニ翁申スヤウ其弓ノ在トコロヲ  
見セタテ、ツラントテ南ヲハルカ一山中ノ大  
ナル湖水ノ鱒ニイタリ又爰兩頭ノ大地ニ



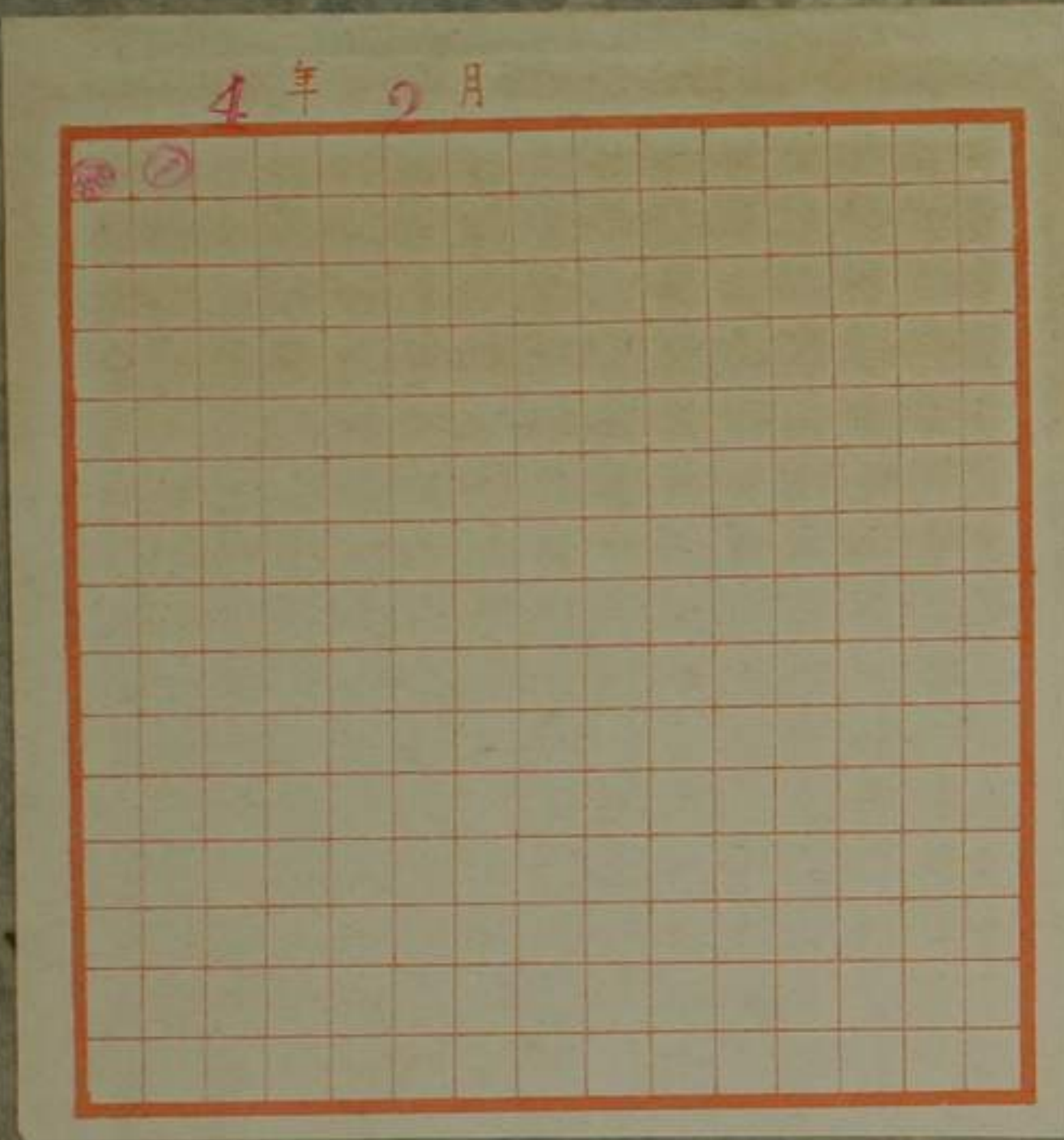
絃ヲ以テ兩ノ口ニクワヘサセ給ヘカシト申  
尊メサレタリシ紫ノ御帶ヲトリイタレテ  
大蛇ニナケカケ玉フトキニ大蛇兩頭ノ口ヲ  
以テ彼糸シクワヘテ張タリソノ体則ハ千  
弓ノゴトシカノ翁ハ阪訪大明神ナリ大蛇ハ  
阪訪ノ御母ノ体ナリト云云依テタノ弓ヲ  
信ヲ乃弓トモ信乃真弓氏号スルナリ  
上野下野カノ兩國ノ中ノアイタニ佐野笠  
ガケ野トテニツノ野バラアリソノ野ナカニ  
一ツノ河アリワタル瀬ト号ス又佐野ノ中

河トテコレアリコノニツノ河ノ名ニツイテ  
フカク秘スルコトアルナリ次ニコノ野ドモヲ  
一方ニヨスレバ國セバキユヘニ彼兩野ノ中左  
ワタル瀬ト塙テ兩國ニワカツ依テ河ヨリ  
西ヲハ上野ト云フ河ヨリ東ヲハ下野ト云  
ナリ又野ノ西ヲ上付野ヨリ東ヲ下付  
レカハ上野下野ト云ヘリタ、レ野ノ字ヲ  
ツケトヨムニ本文ハアラスツケノヨミハカナ  
カキノヨミナリ又義ニヨミテツケト云ナリ  
陸奥國トハミヤコノホカ近江國ニイタル



フ分トメタリ中山道トハ近江美濃信乃  
上野下野奥コノ六ヶ國ナリ依ニ奥州ハ  
コノ國ノ奥ナリ又六ツノ字ヲ後ニ陸ト書  
テ陸字ヲハ三千氏ヨムベシ  
出羽國トハ奥州ノウチナリシカルニ允恭  
天王ノ御代ニ鷲ノ羽ヲ度々御調物ニソ  
ナヘタテマツリケルニ御褒美アツテカノ  
羽ノイツルトコロニナソラヘ出羽ノ國ト名  
ヅケ玉ヒシナリ又カノ國中ニ平賀鷹千  
島サト云鷲會シテスムナリ

上終



河村



ヲ分トメタリ中山道トハ近江美濃信乃  
上野下野奥コノ六ヶ國ナリ依ニ奥州ハ  
コノ國ノ奥ナリ又六ツノ字ヲ後ニ陸ト書  
テ陸字ヲハ三千氏ヨムベシ  
出羽國トハ奥州ノウチナリシカルニ允恭  
天王ノ御代ニ鷲ノ羽ヲ度々御調物ニシ  
ナヘタテマツリケルニ御褒義アツテカノ  
羽ノイツルトコロニナソラヘ出羽ノ國ト名  
ヅケ玉ヒシナリ又カノ國中ニ平賀鷹千  
島ナト云鷲會ニテスムナリ

上終

河本







